



果樹特報

平成 29 年 4 月 7 日
J A 中野市営農センター
No.2 J A 中野市りんご・もも部会

黒星病防除は、早期の予防散布が重要です。現地では被害葉が多く残っており、本年も黒星病多発が心配されます。生育が大きく進んでいた昨年は展葉後から一次感染が拡大し、開花期前後の多雨で蔓延化し果実感染が多発しました。生育は昨年より 7 日程度遅れていますが、早期予防散布徹底のため下記に日程を目安に 4 月中旬の薬剤散布を実施してください。

りんご

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡若宮）

年度	発芽	開花	満開
平年	4 / 4	5 / 1	5 / 3
H 2 7	3 / 3 1	4 / 2 7	4 / 2 9
H 2 8	3 / 3 1	4 / 2 1	4 / 2 3
H 2 9	4 / 7 頃	4 / 2 8 頃	4 / 3 0 頃

発芽は昨年より 7 日程度遅く南北の生育差も見られます。ただし、本年は土壤水分が保持されているため、今後の高温次第で一気に開花まで進む可能性もあります。各園の生育状況はよく確認し管理作業は適期に実施してください。

◆ ふじ開花予想

4/25 頃（南部地帯）・4/28 頃（平岡）・4/30 頃（北部・高標地）

4 月中旬の薬剤散布【展葉後】

散布時期：4 月 10～15 日頃 *注意事項①参照

散布薬剤：水 100ℓ

展着剤 10ml

ユニックス顆粒水和剤 47 100g *②参照

対象病害虫：黒星病・うどんこ病

10 アール当り散布量：350ℓ

【注意事項】*必ずお読みください。

- ① 展葉 2～3 枚目頃を目安に散布する。
- ② ユニックス顆粒水和剤 47 に代えてトレノックスフロアブル 500 倍（30 日前、5 回）でもよい。
- ③ うどんこ病対策：4 月 20 日前後に（発芽 10 日後）にコロナフロアブル 400 倍を特別散布する。
- ④ 園全体に飛散するように散布量は多めに設定する。
- ⑤ 収穫中の他作物等への飛散に注意してください。

◆ 散布日：4 月 日

◆ 散布量： ℓ

◆ 次回（開花期）の薬剤散布予定

ふじの開花期：4/25～30 頃

【黒星病の発生生態と生活史】（長野県果樹指導指針より）

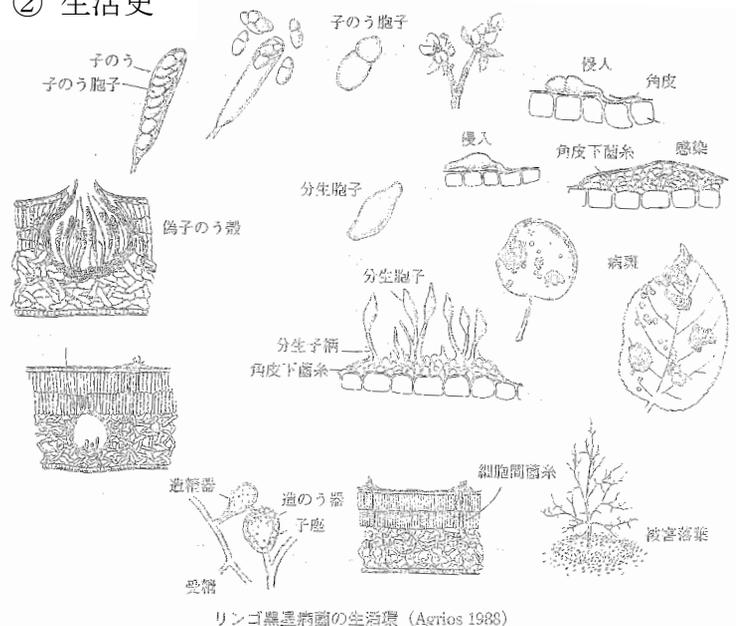
① 発生生態

本病菌は被害落葉・芽りん片・枝病斑で越冬するが、量的に重要なのは被害落葉である。被害落葉上では冬期間に偽子のう殻が形成され、早春に成熟し発芽期頃から子のう胞子が飛散して感染が始まる。子のう胞子の感染適温は 15～20℃で、この温度での潜伏期間は約 10 日である。

一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後は病斑上に形成された分生胞子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生胞子の発芽適温は 15～25℃である。

感染の条件として降雨と密接な関係があり、雨が多い時また葉がぬれている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現われる。

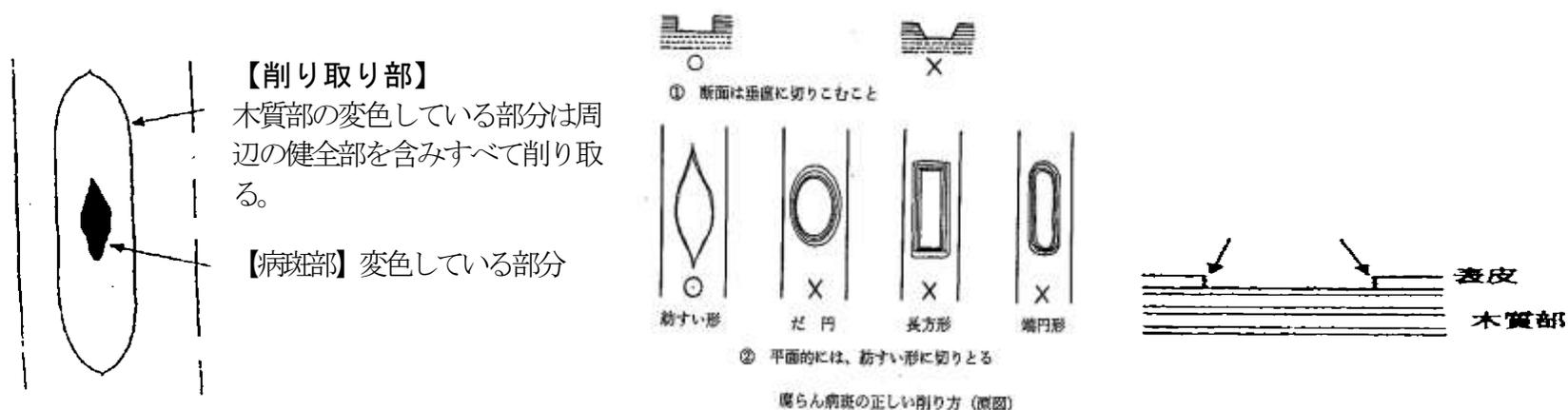
② 生活史



4月の重点管理作業

1. 腐らん病対策（本年も早期多発傾向です！病斑の削り取り・切除・感染予防に努めてください！）

腐らん病斑を見つけ次第、早めに粗皮削り等を行い感染拡大に努めてください。病斑を放置すると、梅雨の期間に蔓延します。早期発見・早期治療を徹底してください。詳しくは、腐らん病対策特報をお読みください。

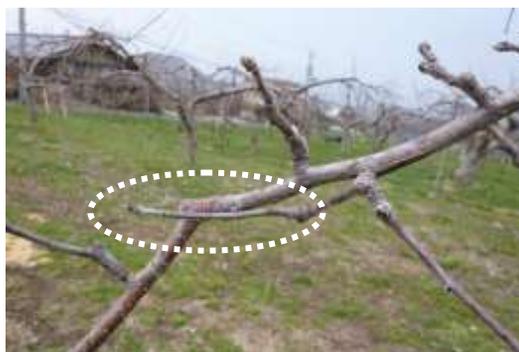


2. 粗皮削り（カイガラムシ類・輪紋病対策）

カイガラムシ類の寄生が多い園では、5月に入る前に金ブラシ等で削り落とす作業を行い、密度抑制に努めてください。また、輪紋病（いぼ皮病）の罹病樹（枝）も多々散見されます。「いぼ皮」を見つけ次第、必ず粗皮ケズリを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。「いぼ皮」を放置すると、梅雨の期間に果実感染が拡大します。ご注意ください。

3. うどんこ病対策

近年蔓延中のうどんこ病は、4～5月が高温・少雨状態で感染が拡大します。被害芽は健全芽と比べると、発芽が約10日前後遅く、しまりのないボケ芽状態になっています。つがる、紅玉等のり病し易い品種では、被害芽（枝）の先刈りを徹底してください。そのまま放置しておくと、感染が進みますので、できるだけ早い時期に密度抑制対策を講じてください。また、薬剤予防として、4月中旬（発芽10日後）にコロナフロアブル400倍等を特別散布してください。



← 越冬した被害芽は、健全芽と比べると発芽が遅く、しまりのない芽（ボケ芽状態）。

4. ケムシ類（マイマイガ）対策

ケムシ類は若齢のうちに防除しておくことが重要です。開花前後の高温で急激に発生する恐れがあります。よって、ここ数年被害が大きかった園や街灯等が近くなる園では、下記の有効薬剤等を散らす等の対策を講じてください。

- ◆ サムコルフロアブル 5,000 倍（ケムシ類・シンクイムシ類・ハマキムシ類に効果あり）
- ◆ フェニックスフロアブル 4,000 倍（ケムシ類・シンクイムシ類・ハマキムシ類に効果あり）

5. ふじ受粉環境の整備について

実際のふじの開花を迎える前に、受粉能力を最大限生かせるように早い段階で整備を進めてください。

- ① 開花10日前から定期的なかん水を行い、土壌の乾燥防止に努める。（花の咲き揃いを良くする）
- ② 日光の入り程度を確認し、園地全体にまんべんなく光が入るようにする。光を大きく遮る中枝等は早めに切除する。（日光が不足すると、小さな花が多くなる）
- ③ 人工授粉用花粉の準備。（貯蔵花粉を使用する場合は、しっかりと湿度にならしてください）